

# 2019年度 環境活動レポート

(対象期間 2019年6月1日 ～ 2020年5月31日)



2020年11月16日  
篠崎木工株式会社

# ○ 目 次 ○

- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.組織表
- 4.環境方針
- 5.環境目標
- 6.環境経営目標・活動計画及び実績表
- 7.環境目標の実績
- 8.環境負荷実績
- 9.環境活動の取組結果の評価、次年度の活動計画
- 10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 11.代表者による全体の評価と見直し指示

## 1.組織の概要

### 1) 事業者名及び代表者名

篠崎木工株式会社

代表取締役社長 戸叶 寛

### 2) 所在地

本社 栃木県佐野市大橋町1366番地  
石塚工場 栃木県佐野市石塚町568番地  
資材部 同上  
藤岡工場 栃木県栃木市藤岡町都賀1363番地  
足利工場 栃木県足利市寺岡町48番地1号  
宮城工場 宮城県加美郡色麻町四竈字大原217番地11号  
小山工場 栃木県小山市土塔560番地 (株UACJ工場内)

### 3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 足利工場 岡村 貴幸 tel 0284-90-2280 fax 0284-90-2281

事務局 石塚工場 味村 信也  
資材部 大島 紀和  
藤岡工場 畠山 常典  
足利工場 岡村 貴幸  
宮城工場 伊藤 祐司  
本社 牧野 和博

### 4) 事業内容

住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売

### 5) 事業規模

売上高	5,426百万円(平成30年度)		
従業員	225名 認証登録範囲対象事業所 178名		
敷地面積	本社	85㎡	足利工場 3,982㎡
	石塚工場・資材部	20,735㎡	宮城工場 8,517㎡
	藤岡工場	15,332㎡	小山工場 顧客工場内

## 2.対象範囲

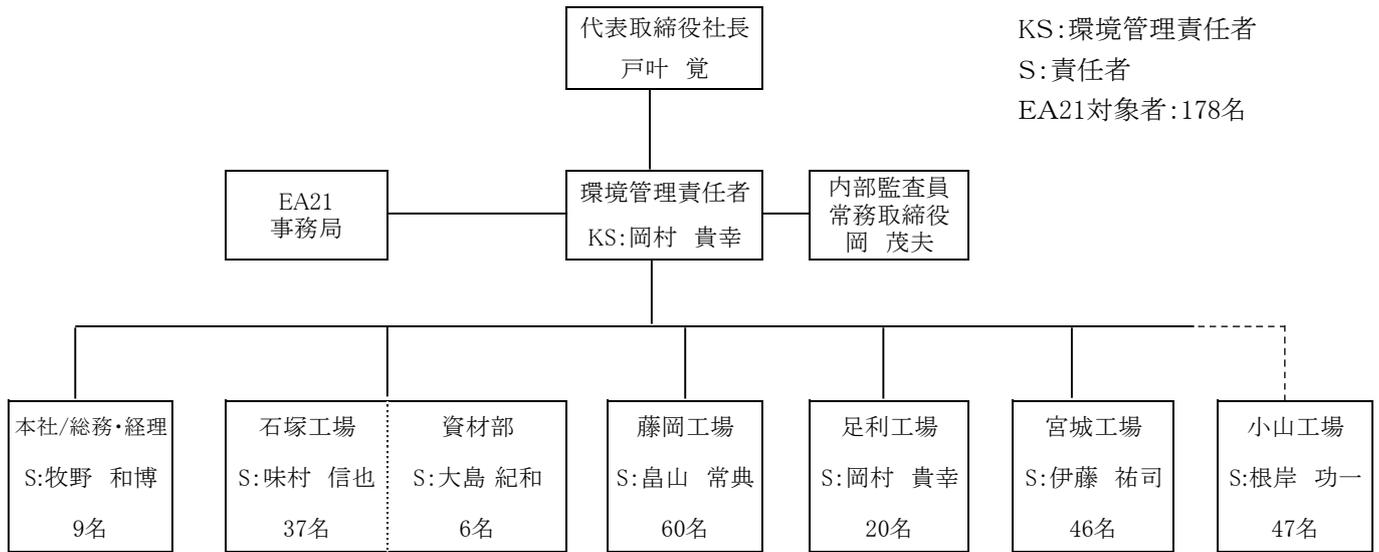
篠崎木工株式会社の住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売に関わる全ての事業を対象とする。

認証登録サイト	石塚工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	資材部	・輸入木材の販売、住宅関連設備の販売
	藤岡工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	足利工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	宮城工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売、及び鋼製部材の製造販売
	本社	・経理、総務

顧客EMS管理下にある 小山工場 ・顧客工場内請負作業(アルミ製品の検査・梱包)

3.組織表

制定日： 2013年12月1日  
改定日： 2019年6月1日



KS:環境管理責任者  
S:責任者  
EA21対象者:178名

※1

※1 対象範囲外  
小山工場は顧客EMS  
管理下にある。

◎役割・責任表

責任者	役割
社長	1 環境方針を制定する 2 環境管理責任者を任命する 3 環境経営システムの全体の評価と見直しを行う 4 推進に必要な要員、技術、資金等を準備する 5 課題とチャンスを明確にする
環境管理責任者	1 環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する 2 環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する 3 環境への負荷及び取組の自己チェックの実施リーダー 4 環境目標及び活動計画を策定し、承認する 5 環境目標及び活動計画の達成状況や実施状況の確認と評価を行い、社長に報告する 6 環境関連法規の取りまとめ、最新チェック及び遵守状況の確認する 7 代表者による全体の評価と見直しのための情報を報告する
EA21事務局	1 EMS全体の活動を確認し、高環境作りをサポートする 2 EMS共通書類(文書・記録)の原本管理を行う
内部監査員	1 内部監査を実行する
責任者	1 部門ごとの活動計画を策定し、達成状況、実施状況を把握し、環境管理責任者に報告をする 2 部門ごとの教育訓練の実施リーダー 3 外部からの苦情や要望のを受け付ける窓口 4 文書、記録を管理する
社員	1 活動計画の担当者として実行する 2 システムで定めたルール、取り組み事項を自発的、積極的に実施する

# 環境経営方針

当社は持続可能な木製部材の生産を通じて  
「調和のとれた快適環境の創造」を企業理念に  
社員一人ひとりが、未来の地球環境を考え  
今やるべき活動に取り組みます。

- (1) 環境経営システムを構築し、維持向上に努めます。
- (2) 環境経営に関わる活動を継続的に改善し、省エネルギー及び環境負荷の低減に努めます。
- (3) 環境関連法規制およびその他の要求事項を順守します。
- (4) 原材料である木材を大切に使用し、不良品を作る無駄を減らし、端材を有効利用します。
- (5) クリーンウッド法を適正に運用し、合法伐採木材の流通及び利用を促進します。
- (6) 生産活動より発生する不用品は、分別することで廃棄物を削減する。
- (7) この環境経営方針は、社内外の人に周知するとともに広く開示します。

平成30年6月1日  
篠崎木工株式会社  
代表取締役社長

戸叶 寛

## 5.環境経営目標（2019年度～2021年度）

### 1) 石塚工場・資材部

	項目	2018年度基準 (2018年6月～ 2019年5月)	2019年度目標 (2019年6月～ 2020年5月)	2020年度目標 (2019年6月～ 2020年5月)	2021年度目標 (2020年6月～ 2021年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	5,214	基準年-0.5% 5,191	基準年-1% 5,162	基準年-1.5% 5,136
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	36.51	基準年-0.5% 36.35	基準年-1% 36.14	基準年-1.5% 35.96
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	140.27	基準年-0.5% 139.64	基準年-1% 138.87	基準年-1.5% 138.17
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	3,378	基準年-0.5% 3,363	基準年-1% 3,344	基準年-1.5% 3,327
廃棄物削減に 関係する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	8.939	基準年-0.5% 8.899	基準年-1% 8.850	基準年-1.5% 8.805
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	478	基準年-0.5% 476	基準年-1% 473	基準年-1.5% 471
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	102.6	基準年-0.5% 102.14	基準年-1% 101.11	基準年-1.5% 100.09
	水使用量 (単位:m3/千万円)	3.539	基準年-0.5% 3.523	基準年-1% 3.504	基準年-1.5% 3.490
	化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目・輸入木材の不良率低減(単位:%)	8.97	基準年-0.5% 8.925	基準年-1% 8.88	基準年-1.5% 8.84

\* 電気の排出係数:0.571kgCO2/kWhを使用(平成30年度公表の大和ハウス工業の排出係数)

\* 原単位は工場売上高当たりである。

5.環境経営目標 (2019年度～2021年度)

2) 藤岡工場

	項目:(原単位/千万円)	2018年度基準 (2018年6月～ 2019年5月)	2019年度目標 (2019年6月～ 2020年5月)	2020年度目標 (2020年6月～ 2021年5月)	2021年度目標 (2021年6月～ 2022年5月)
二酸化炭素削減に係る項目	電力消費量 (単位:kWh/千万円)	3,442	基準年-0.5% 3,425	基準年-1% 3,408	基準年-1.5% 3,390
	ガソリン消費量 (単位:ℓ/千万円)	4.75	基準年-0.5% 4.73	基準年-1% 4.70	基準年-1.5% 4.68
	軽油消費量 (単位:ℓ/千万円)	75.32	基準年-0.5% 74.94	基準年-1% 74.57	基準年-1.5% 74.19
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	2,177	基準年-0.5% 2,166	基準年-1% 2,155	基準年-1.5% 2,144
廃棄物削減に係る項目	一般廃棄物排出量 (単位:kg/千万円)	14,109	基準年-0.5% 14,038	基準年-1% 13,968	基準年-1.5% 13,897
	産業廃棄物(合板) (単位:kg/千万円)	659	基準年-0.5% 656	基準年-1% 652	基準年-1.5% 649
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	75.92	基準年-0.5% 75.54	基準年-1% 75.16	基準年-1.5% 74.78
水使用量の節減 (単位:m3/千万円)		19,938	基準年-0.5% 19,838	基準年-1% 19,739	基準年-1.5% 19,639
化学物質使用量の制御		必要なSDSを入手し維持管理する			
事業項目・カナダ製木材の不良率低減 (単位:%)		9.8	基準年-0.5% 9.75	基準年-1% 9.70	基準年-1.5% 9.65

\* 電気の排出係数：0.571kgCO2/kWhを使用（平成30年度公表の大和ハウス工業の排出係数）

\* 二酸化炭素排出量はH30年度の購入電力消費量（584,895kWh）に排出係数0.571を乗じた原単位

\* 原単位は工場売上高当りである

5.環境経営目標 (2019年度～2021年度)

3) 足利工場

	項目	2018年度基準 (2018年6月～ 2019年5月)	2019年度目標 (2019年6月～ 2020年5月)	2020年度目標 (2020年6月～ 2021年5月)	2021年度目標 (2021年6月～ 2022年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	1,487	基準年-0.5% 1,480	基準年-1% 1,472	基準年-1.5% 1,465
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	11.72	基準年-0.5% 11.66	基準年-1% 11.60	基準年-1.5% 11.54
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	60.77	基準年-0.5% 60.47	基準年-1% 60.16	基準年-1.5% 59.86
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,037	基準年-0.5% 1,032	基準年-1% 1,027	基準年-1.5% 1,022
廃棄物削減に 関係する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	3,103	基準年-0.5% 3,088	基準年-1% 3,072	基準年-1.5% 3,057
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	196	基準年-0.5% 195	基準年-1% 194	基準年-1.5% 193
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	389.65	基準年-0.5% 387.70	基準年-1% 385.75	基準年-1.5% 383.81
	水使用量 (単位:m3/千万円)	3,586	基準年-0.5% 3,568	基準年-1% 3,550	基準年-1.5% 3,532
	化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目 ・パネルの不良率を低減させる (単位:%)	0.0344	基準年-0.5% 0.0342	基準年-1% 0.0341	基準年-1.5% 0.0339

\* 電気の排出係数:0.571kgCO2/kWhを使用(平成30年度公表の大和ハウス工業の排出係数)

\* 二酸化炭素排出量はH30年度の購入電力消費量(86,278kWh)に排出係数0.571を乗じた原単位

\* 原単位は工場売上高当りである

5.環境経営目標 (2019年度～2021年度)

4)宮城工場

	項目	2018年度基準 (2018年6月～ 2019年5月)	2019年度目標 (2018年6月～ 2019 年5月)	2020年度目標 (2020年6月～ 2021年5月)	2021年度目標 (2021年6月～ 2022年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	3,018	基準年-0.5% 3,004	基準年-1% 2,988	基準年-1.5% 2,973
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	17.73	基準年-0.5% 17.64	基準年-1% 17.55	基準年-1.5% 17.46
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	82.48	基準年-0.5% 82.07	基準年-1% 81.66	基準年-1.5% 81.24
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	2,740	基準年-0.5% 2,726	基準年-1% 2,713	基準年-1.5% 2,699
廃棄物削減に 関係する項目	一般廃棄物 (単位:kg /千万円)	9.995	基準年-0.5% 9.945	基準年-1% 9.895	基準年-1.5% 9.845
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	1,074	基準年-0.5% 1069	基準年-1% 1063	基準年-1.5% 1058
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	273.72	基準年-0.5% 272.35	基準年-1% 270.98	基準年-1.5% 269.61
	水使用量 (単位:m3/人)	10.860	基準年-0.5% 10.806	基準年-1% 10.751	基準年-1.5% 10.697
	化学物質使用量の制御 防腐液の客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目 ・内壁枠不具合の低減(単位:%)	0.02	基準年-0.5% 0.0199	基準年-1% 0.0198	基準年-1.5% 0.0197

\* 電気の排出係数:0.571kgCO2/kWhを使用(平成30年度公表の大和ハウス工業の排出係数)

\* 二酸化炭素排出量はH30年度の購入電力消費量(291,037kWh)に排出係数0.571を乗じた原単位

\* 原単位は工場売上高当りである

\* 水使用量を29年度から一人当たりの実使用量へ変更

5.環境経営目標 (2019年度～2021年度)

5) 本社

	項目	2018年度基準 (2018年6月～ 2019年5月)	2019年度目標 (2019年6月～ 2020年5月)	2020年度目標 (2020年6月～ 2021年5月)	2021年度目標 (2021年6月～ 2022年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh)	13,290	基準年-1% 13,157	基準年-2% 13,024	基準年-3% 12,891
	ガソリン使用量 (単位:%)	3,985.12	基準年-1% 3,945.27	基準年-2% 3,905.42	基準年-3% 3,865.57
	灯油使用量 (単位:%)	108.00	基準年-1% 106.92	基準年-2% 105.84	基準年-3% 104.76
	液化石油ガス(LPG)使用量 (単位:kg)	14.70	基準年-1% 14.55	基準年-2% 14.41	基準年-3% 14.26
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2)	16,254	基準年-1% 16,091	基準年-2% 15,929	基準年-3% 15,766
削減廃るに棄 項関物 目係削	一般廃棄物 (単位:kg)	268	基準年-1% 265	基準年-2% 263	基準年-3% 260
	水使用量 (単位:m3)	81.7	基準年-1% 80.9	基準年-2% 80.1	基準年-3% 79.2

\* 電気の排出係数:0.462kgCO2/kWhを使用(平成30年公表の東京電力の排出係数)

\* 化学物質の使用はない為、目標として取り上げていない

## 7.環境経営目標の実績

全事業所、2018年6月～2019年5月の実績である。

### 1) 石塚工場・資材部

項目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	5,214	5,130	-84	-1.61%	達成
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	36.51	29.12	-7.39	-20.24%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	140.27	128.41	-11.86	-8.46%	達成
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	3,378	3,329	-49	-1.45%	達成
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	8.94	11.41	2.471	27.64%	未達
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	478	831	353	73.85%	未達
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	102.6	91.1	-11.48	-11.2%	達成
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	3,539	3,933	0.394	11.13%	未達
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩輸入木材の不良率低減(%)	8.96	6.37	-2.59	-28.91%	達成

### 2) 藤岡工場

項目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	3,442	3,758	316	9.18%	未達
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	4.75	5.50	0.75	15.79%	未達
③軽油使用量(ℓ/千万円)	75.32	79.05	3.73	4.95%	未達
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	2,177	2,366	189	8.68%	未達
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	14.109	12.57	-1.54	-10.91%	達成
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	659	624	-35	-5.31%	達成
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	75.92	104.00	28.08	36.99%	未達
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	19,938	29,515	9,577	48.03%	未達
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩2×4材の不良率(%)	9.8	7.6	-2.2	-22.45%	達成

## 3) 足利工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	1,487	1,652	165	11.10%	未達
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	11.72	10.38	-1.34	-11.43%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	60.77	65.49	4.72	7.77%	未達
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	1,037	1,120	83	8.00%	未達
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	3.103	3.637	0.534	17.21%	未達
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	196	426	230	117.35%	未達
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	389.65	352.29	-37	-9.59%	達成
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	3.586	6.387	3	78.11%	未達
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩パネルの不良率(%)	0.0344	0.0292	-0.005	-15.12%	達成

## 4) 宮城工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	3,018	3,001	-17	-0.6%	達成
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	17.73	17.37	-0.36	-2.0%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	82.28	71.33	-10.95	-13.3%	達成
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	2,740	1,991	-749	-27.34%	達成
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	9.990	8.310	-1.680	-16.8%	達成
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	1073	1145	72	6.7%	未達
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	273.72	262	-12	-4%	達成
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /人)	10.86	10.197	-0.7	-6.1%	達成
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩内壁枠不具合の低減(%)	0.02	0.0034	-0.02	-83.0%	達成

## 5) 本社

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh)	13,290	12,704	-586	-4.41%	達成
②ガソリン使用量(%)	3985.12	3871.04	-114.08	-2.86%	達成
③灯油使用量(%)	108.00	90.00	-18.00	-16.67%	達成
④液化石油ガス(LPG)使用量(kg)	14.70	16.97	2.27	15.44%	未達
⑤二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	16,091	15,131	-960	-5.97%	達成
⑥一般廃棄物排出量(kg)	268	284	16	5.97%	未達
⑦総排水量(m <sup>3</sup> )	81.7	83.2	1.5	1.84%	未達

\* 本社、石塚、藤岡、足利、宮城工場は電気の排出係数:0.571kgCO<sub>2</sub>/kWhを使用(平成30年度公表の大和ハウス工業の排出係数)

8. 主な環境負荷実績(2016～2019年度)

			2016年	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素排出量	電力使用量 単位:Kwh	藤岡工場	588,332	529,000	584,895	569,200
		石塚工場	602,555	550,415	578,121	534,836
		足利工場	104,451	98,926	86,278	81,330
		宮城工場	303,864	279,988	291,037	271,391
		本 社	17,442	14,709	13,290	12,704
		合 計	<b>1,616,644</b>	<b>1,473,038</b>	<b>1,553,621</b>	<b>1,469,461</b>
	化石燃料 ガソリン・軽油 単位:l	藤岡工場	13,754	13,516	13,607	12,806
		石塚工場	25,361	25,430	20,220	16,421
		足利工場	3,705	4,233	4,205	3,799
		宮城工場	9,881	10,399	9,665	8,005
		本 社	4,772	5,063	3,985	3,871
		合 計	<b>57,473</b>	<b>58,641</b>	<b>51,682</b>	<b>44,902</b>
	二酸化炭素 単位:kg-CO2	藤岡工場	332,928	302,776	331,305	358,372
		石塚工場	369,436	343,377	343,689	347,078
		足利工場	62,333	60,931	54,459	56,320
宮城工場		207,774	195,364	264,252	180,059	
本 社		20,133	20,133	16,254	15,131	
合 計		<b>992,604</b>	<b>922,581</b>	<b>1,009,959</b>	<b>956,960</b>	
廃棄物排出量 単位:t	藤岡工場	198	231	129	112	
	石塚工場	44	61	58	95	
	足利工場	40	38	34	39	
	宮城工場	116	113	131	127	
	本 社	0.24	0.20	0.26	0.27	
	合 計	<b>398</b>	<b>444</b>	<b>352</b>	<b>373</b>	
総排水量 単位:m <sup>3</sup>	藤岡工場	1,400	1,991	3,388	4,470	
	石塚工場	404	441	400	410	
	足利工場	279	271	208	305	
	宮城工場	406	467	370	328	
	本 社	106	85	82	83	
	合 計	<b>2,595</b>	<b>3,255</b>	<b>4,448</b>	<b>5,596</b>	
化学物質使用量 単位:kg	藤岡工場	—	—	0	0	
	石塚工場	—	—	49	378	
	足利工場	—	—	232	168	
	宮城工場	—	—	144	110	
	本 社	—	—	0	0	
	合 計	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>425</b>	<b>656</b>	

## 9.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

### 1) 環境活動の取組結果の評価

#### ① 二酸化炭素排出量の削減

##### 石塚工場・資材部

- ・電力消費量については(基準) 5,214 KWh/千万円に対し、実績 5,130 KWh/千万円、-1.61%と減少した。主な要因は工場照明を水銀灯からLEDに変更。1工場・3工場で使用していた、集塵機 3台を1台に集約。事務所内の空調を省エネ空調に変更した事によって達成した。
- ・ガソリン使用量は(基準) 36.51L/千万円に対し、実績 29.12L/千万円、-20.24%と減少した。主な要因は、資材部の従業員1名が部署移動になった為、社用車のガソリン消費量が減少した事が大きな要因となっている。
- ・軽油使用量は基準140.27L/千万円に対し、実績 128.41L/千万円、-8.46%と減少した。主な要因は、今まで全課 生産性向上の取り組みを行って来た事によって、生産性が向上し、フォークリフトの稼働時間も削減した。

##### 藤岡工場

- ・電力消費量については基準 3,442 KWh/千万円に対し、実績 3,758KWh/千万円で+316KWh/千万円、+9.2%で目標には届かなかった。主な要因は 生産量が月によって大きくばらつきがあり、設備稼働時間が集中したことが要因である。その中でも大型設備の稼働率が大きかった為、電力消費が増えた事が考えられる。昨年度と比較すると出荷量が減少したが、時間数で見ると昨年を上回る状態が続いた為、目標を達成することが出来なかった。特に下期はコロナ渦の中での生産で効率の悪さが大きく影響した。
- ・ガソリン消費量については基準 4.75L/千万円に対し、実績 5.50L/千万円で+0.75L/千万円、+15.8%の数値で目標未達成である。不用意な外出や乗り合い乗車、まとめたの用事足しなどの活動を行って来たが、会社施策として他工場への外出が増えたことや、現場差し替え作業による乗車が要因として挙げられる。
- ・軽油消費量については基準 75.32L/千万円に対し、実績 79.05L/千万円で+3.73L/千万円、+5.0%で目標には4.11ℓ/千万円届かなかった。主な要因は電力消費量同様、生産量が月によってばらつきがあり、稼働時間が集中した事が挙げられるが、フォークリフトの使用年数が7～8年経過し燃費が低下していることも要因として考えられる。

##### 足利工場

- ・基準 1,037kg-co2/千万円に対し、1,120kg-co2/千万円と+83kg-co2/千万円+8%と昨年よりも+19%アップとなってしまった。環境への負荷の自己チェックの取りまとめ表の割合を見ても昨年の電力のCO2排出量約80.0%に対し、今年度は82.5%と2.5%アップした。その他ガソリンは2.9%→2.32%、軽油が17.0%→15.0%、LPGも0.14%→0.18%と電力とLPG以外はダウンとなった。

##### 宮城工場

- ・基準 2,740kg-co2/千万円に対し 実績1,991kg-co2/千万円と-749kg-co2/千万円、-27.3%になった。要因として、仕事量の落ち込みもあり、電気・ガソリン・軽油を抑制できたことによる。ただし、仕事量確保の為、製品の内製化を進めているので産業廃棄物(木材)の排出量は6.7%アップしてしまった。

##### 本社

- ・基準を見直した灯油使用量は目標の-16.7%と達成した。しかし前年目標には届いておらず更なる改善が必要。電気、ガソリン使用量は目標を達成。ガス利用量は基準の15.45%増となり未達成となった。結果として二酸化炭素排出量全体の数値は-6%と僅かに減少し目標を達成した。

## ② 廃棄物排出量の削減

### 石塚工場・資材部

- ・一般廃棄物については(基準) 8.939kg/千万円に対し、実績 11.410kg/千万、+27.64%と未達成になってしまった。要因として、生産現場で使用している生産リストに項目を追加した事により、縦印刷から、横印刷になった事で、使用枚数が増えた事が原因と考えられる。次年度の取り組みとして、リストの必要性を見直し/社内で使用する用紙に関しては裏紙を活用して行く。
- ・産業廃棄物(木材)については(基準) 478kg/千万円に対し、実績 831kg/千万円 +73.86と未達成になってしまった。要因として、ポプラ材から杉材へ樹脂変更に伴いカット品が増えた事が考えられる。
- ・産業廃棄物(廃プラ)については(基準) 102.60kg/千万円に対し、実績 91.1kg/千万円 -11.48kg/千万円 減少した。要因として社

### 藤岡工場

- ・産業廃棄物の木材(合板)については基準 659kg/千万円に対し、実績 624kg/千万円で-35kg/千万円、-5.3%と目標を上回る達成率となった。その背景には原板サイズの見直しによる端材量の減少や規格外の再加工などを含めて全体的に排出量を減少させた事が背景にある。廃プラについては基準 75.92kg/千万円に対し、104.00kg/千万円と+28.08kg/千万円、+37.0%と目標にはほど遠い結果となった。樹脂系の中国への輸出が規制され又、国内でもリサイクル出来ずに、廃プラ量の搬出が増えた状況が解消されていない。PPバンド等の社内利用は引き続き行っているが、効果としては薄いものであり、廃プラが滞留している状態である。

### 足利工場

- ・一般廃棄物については基準 3.103kg/千万円に対し実績 3.637kg/千万円と+0.534kg/千万円+17.2%と未達成となった。一昨年度の途中から生産日報をB5からA4に変えた事で昨年は15枚/日×21日/月=315枚/月×12か月=3780枚/年間、B5とA4の重量差は1gなので3780g増えたことになる。また、以前は他工場から裏紙をもらうなどしていたが最近ではもらえなくなった為、その分、使用量も増えたと考ええる。
- ・木材については基準196kg/千万円に対し実績426kg/千万円と+230kg/千万円、117.6%で未達成となった。昨年は約4か月/回ペースで木くずの処分を依頼しており1回の処分で800kg/千万円前後で推移していたが、水害のあった10月は約900kg/千万円、閑散期に残材の処理を行った2月以降は約1,300kg/千万円と大幅に増えてしまった。
- ・断熱材については基準389.65kg/千万円に対し、実績352.29kg/千万円と-37kg/千万円、と-9.6%で達成となった。要因としては昨年10月よりフレコンの形状が変わり以前の物よりも端材が入れやすくなっており詰め込める量も変わった事が考えられる。また、断熱材について

### 宮城工場

- ・廃棄物(木材)については、外注加工から内製化に切り替えている為、基準1073kg/千万円に対し1145kg/千万円と6.7%増 今後も更に内製化を進めていくため、木材の廃棄量は増加していく見込みです。基準値の見直しが必要と考えます。

### 本社

- ・税務調査、補助金申請業務等の特殊要因により大幅に用紙使用量が増加してしまい、目標の5.97%増となった。特に税務調査では、電子保存している帳票を印刷した為(3年分、約6千枚)大幅に増加してしまった。取り組みは継続して行われており、特殊要因を除けば削減を達成できているので、これまで通り取り組みを継続して行きたい。

### ③ 水使用量の削減

#### 石塚工場・資材部

・基準と比べて0.394m<sup>3</sup>/千万円増加している。浄化槽の詰まりを防ぐ為、定期的に排水を行っている為、使用量が増えてしまった。浄化槽の工事が必要と感じている。

#### 藤岡工場

・基準 19.938m<sup>3</sup>/千万円に対し、29.515m<sup>3</sup>/千万円と+9.577m<sup>3</sup>/千万円、+48%と増加傾向は変わっていない。埋設されている古い水道管からの漏水と見られるのが原因で漏水工事を行ったが、一部の漏水を止めたが、複数箇所からの原因は特定できずにいる為、変わっていない状況である。又、冬場の水道管の凍結防止で水を少しだけ出していたことも要因の一つである。

#### 足利工場

・基準 3.586m<sup>3</sup>/千万円に対し、6.387m<sup>3</sup>/千万円と+2.801m<sup>3</sup>/千万円、+78%になった。要因として8～9月の2か月間は例年通り熱中症対策の為、社内で麦茶を作るなどして水使用量は増える傾向にあるが10月の水害以降、高圧洗浄機を使用し、工場内の清掃、原材料などの洗浄を実施する事が増えた為、未達となった。

#### 宮城工場

・基準年 10.86m<sup>3</sup>/人に対し、10.197m<sup>3</sup>/人と-0.663m<sup>3</sup>/人 -6.1%と達成する事ができました。一人一人が、節水への意識、行動が習慣になって来たと思います。

#### 本社

・基準より1.8%増となり、未達成となった。  
今回の原因としては、台風19号の影響による道路の泥水等の汚れにより、営業車両の汚れが酷く、洗車を行なうことが多くなってしまい、結果として使用量が増加してしまった。水使用量が増加してしまったが、通常利用の節水取組みは継続されており、一定の効果が出ていると考えています。引き続き取り組みを行い、目標達成を目指していきたい。

#### ④ 化学物質使用量の制御

石塚工場・資材部

・防腐済みのサンプルをコシイプレザービングへ郵送し検査している。  
客先指定濃度を維持できている。

藤岡工場

・購入品に対する化学物質の把握から必要なSDSを入手し管理台帳を付けることによって維持管理を行った。又、定期的に担当者との取り扱いについての説明を行い、適切な方法で使用する事が出来た。

足利工場

・基準2.861kg/千万円に対し3.000kg/千万円と4.8%増えてしまったが災害時に防腐済みの材料も被害を受け廃棄した事で再度、含侵作業が増えて使用量も増加したと考えられる。1回/月の防腐液濃度検査も特に問題なかったため使用量も適正と考

宮城工場

・毎月1回 防腐済みの試験片を検査機関へ郵送し薬剤の使用量が適正か否かを検査し、管理しています。引き続き、使用量を適正な管理を行い、過剰な使用は、絶対行わない。

#### ⑤ 事業項目

石塚工場・資材部

・目標に対し不良低減率が、基準：8.96%から実績：6.37% -2.59%削減出来た。樹種変更が大きな要因と考えられる。  
現在も樹種変更を継続している。

藤岡工場

・目標に対し不良低減率が-2.2%程低下した。背景には現地の製材工場を変えるなど、現地メーカーに対して要望・要求を行なってきたのが寄与されている。又、品薄・価格高騰の折でも、正規品を調達出来たことが要因として挙げられる。

足利工場

・基準0.0344%/千万円に対し0.292%/千万円で達成となった。今期は試作をなどはほとんどなく通常業務で発生した不良品は手直し可能なものについてはある程度できたので不良率も減った。

宮城工場

・内壁枠生産不具合率が、基準の0.0200%から0.0034% -83%となりました。作業者が、チョコ停を異常と認識し、原因追及と対策に取り組んだり、工程の前後で不具合情報の交換が密になり原因を潰した結果と認識します。

## ⑥ その他

### 石塚工場・資材部

・昼食後の10分間清掃は各チームとも意見を出し合って5Sが推進できているため、今後も継続して行っていく。  
工場全体の配置転換は出来ていないが、課によって配置換え/置き場 変更を行っている。

### 藤岡工場

・5S活動の活性化でマンネリ化しない工夫を行ってきたが、全体的な意欲という意味では停滞の状態になっている。但し、顧客様からは改善状況の視察や見学などの依頼もあり、評価は頂いている。今後は全員が考える活動を行っていきたい。

### 足利工場

・酢ビ系ボンドの容器として使われているビニール袋の解体、乾燥を継続的に行えたので溜まることなく適切に管理できた。

### 宮城工場

昨年から引き続き、新規作業対応で、部署の変更や新メンバーの配置換えが継続的であったので、ベテラン社員からの安全教育と環境配慮の指導を推進し、目標達成に向けて活動して行きます。

### 本社

・従来の取組みの他、書類保管期間の確認整理を行った結果、書庫の大幅な整理を行うことが出来た。  
空いたスペースは現時点で活用できていないが、永年保管資料の保管スペース等、有効利用することを検討している。

## 10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

全工場および本社は、2020年6月中に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果違反は有りません。  
尚、関係当局からの違反の指摘も過去5年間無く、訴訟等も過去に1件も有りません。

## 11.代表者による全体の評価と見直し指示

全体についての評価、今後への指示事項

全体：全従業員が「環境経営方針」を理解し環境活動・環境関連法規の遵守等において計画的に取り組んでいる。しかし目標に対しての未達成が多い。新たな仕事の取り組み・台風による被災等特殊要因は別として達成するための新たな取り組みを増やして欲しい。

※ 他社での取り組みを導入する。

### 1、石塚工場・照明のLED化

・2019年12月に計画通りに設置完了。1月より約30%の電力削減達成。

今後は設備による効果だけで無く一人ひとりの削減対策の強化を図る。

### 2、廃プラの有効的な再利用を検討する。

・現状産廃処理。引続き有効な再利用を検討する。

### 3、弊社事業に係る関連会社の環境へ影響を及ぼす活動についても取り組む。

環境経営方針	・環境方針は変更せずに継続します。
環境経営目標及び環境経営計画	・基準年-0.5%を継続する。
実施体制	・実施体制は変わらず継続する。